日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

イエス は 主なり

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈祷運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充満 ・ 献身 ・ 奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1　天門教会内　日本クリスチャン・アシュラム連盟　振替口座　東京 00100-1-4558

主が共におられます

日本同盟基督教団　支援牧師

岡山敦彦

明けましておめでとうございます。

一昨年、昨年と新型コロナの感染拡大で世界中が大混乱でした。日本は収束に向かいつつあるとはいえ、予断は禁物です。教会活動も制限を余儀なくされ、各地のアシュラムの多くも開催することができませんでした。

私の個人的なことをお証しさせていただきます。昨年５月５日、普段は元気な私ですが体調が芳しくなく、急遽救急車の依頼をして、大分県立病院に運ばれました。検査の結果コロナとの診断が下されました。入院後も体調は良くなくて、入院５日後には人工心肺の処置となりました。医師とスタッフの方たちが病室に入られて処置を始められたことは覚えていますが、その後８日間全く意識がなく、昏睡状態でした。家族も私の死を覚悟するほどの状態でした。私の身長は１８６センチで体重は７７キロでしたが意識が戻った時には５７キロに激減していました。２０日間はコロナ治療に集中し、一般病棟で３０日間を過ごしました。その後６月２４日にリハビリ専門病院に転院して２か月半の入院生活をしました。転院した当初はベッドから立ち上がるのがやっとでしたが、病院の医師、スタッフの熱心で親切な介護のサポートで順調に回復しました。リハビリ担当者（理学療法士）の方たちが驚かれるほどの回復ぶりでした。毎週ごとにリハビリメニューが新しく変わりました。そして、９月１５日に退院、長女のいる久留米に引っ越してきました。

入院中にこれ以上教会に仕えることは無理と考え、大分恵みキリスト教会の牧師を辞任しました。アシュラム誌の編集は、石井兄と川村兄の働きで継続することができました。

主の恵みにより、体重も６７キロにまで回復し、日常の生活は支障がなく過ごすことができるまでに回復しました。減った体重とスタミナの回復にはもう少し時間がかかりそうで、今もリハビリに励んでいます。アシュラム誌の編集は１月から奉仕できるまでに回復しました。コロナが収束すれば、９月に九州アシュラムも開催できることを願っています。

今回の病を通して多くのことを主の恵みと感謝し、その他多くのことを学びました。第一はみことばの確かさです。私は死線をさまよいましたが、入院中は詩篇２３篇４節（たとえ、死の陰の谷を歩むとしても、私はわざわいを恐れません。あなたが、ともにおられますから）のみことばを実感して味わいました。第二は、主にある兄弟姉妹のとりなしの祈りです。どれだけ多くの兄弟姉妹たちが祈ってくださったことでしょうか。

天国の入り口まで行きましたが、主から「あなたにはまだ地上でなすべきことが残っているので戻りなさい」と言われた気がします。その一つがアシュラム運動の働きをすることであります。もう一つは、教会の直接の働きから離れて、より自由に奉仕することです。私は「信仰の眼で読み解く絵画」７冊を自費出版していますが、これからはお招きを受ければ、午前は説教、午後は絵画セミナーの奉仕を今までしてきたことですが、今後も続けますのでお祈りください。

私は決して若くはありませんが、アシュラム運動のために微力ではありますが、一翼を担っていくことを願っています。

霊想 安心と確信

ヨハネ第一 3：19～24

東京聖書学校
島　隆三

「神のみまえに心を安んじていよう。なぜなら、たといわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたしたちの心よりも大いなるかたであって、すべてをご存じだからである。」（第一ヨハネ 3：19,20 口語訳）

これは具体的な例で考えた方がわかりやすい。ペトロの場合を考えてみよう。ペトロは、大事な場面で「あの人のことは知らない」と三度も主を否定した。だから、彼は心に責められ、主イエスに対して大きな負い目を抱いていた。

そのペトロに復活の主は親しく声を掛けられた（ヨハネ２１章)。「わたしを愛するか？」と三度問いかける主に「主よ、そうです。私があなたを愛することはあなたがご存じです」と答える。心責められ恥ずかしくてたまらないが、それでも「わたしはあなたを愛します」と言わざるを得ない愛すべきペトロ。

主はすべてをご存じだということは、私たちにとって大きな慰めです。ヘブライ書にもあるように、主イエスは私たちと同じ試みに遭い、私たちの弱さをよくご存じである。そのお方が、私たちの大祭司として、父なる神の前でとりなして下さるのだ。

だから、ペトロのように心責められる時も、心を安んじていることができる。なぜなら「神は、私たちの**心よりも大きい**」とヨハネは言う。私たちを責め続ける私たちの心よりも神は大きい方である。ご自身を裏切ったペトロをも包み込んで、なお彼を愛してやまないお方だ。だから、そのお方に信頼して安心しようというのが、ヨハネの勧めです。しかし、そこで終わらないのが聖書です。続きもしっかり見てみよう。**「愛する者たち、私たちは心に責められることがなければ、神のみ前で確信を持つことが出来る」**というのです。心が責められても決して絶望ではないが、願わくは責められない晴朗な心でいられたらもっとすばらしい。それは誰しも願うことでしょう。その時、私たちは神のみ前で確信を持つことが出来るというのです。

ここに二つの心の状態があります。一つは、心が責められる状態、でも、大丈夫です。神は、そういう私たちも主イエスの十字架の故に赦して受け入れて下さる。しかし、もう一つの心の状態は、心に責められることがない状態。その時にこそ、私たちは確信を持つことが出来、祈りが答えられるという確信につながる。

私たちの指導者であった小原十三司（とさじ）師のことを思い起こす。先生はあるときしみじみと言われた。「私は、罪を作ることはできないのだ。なぜなら、確信を持って祈ることができなくなるから」と。先生のあの確信に満ちた祈りの秘訣を見たように思った。

ペトロのことを再度、思い返そう。復活の主に出会って、うれしかったが、主を裏切ったという心の痛みと恥ずかしさも残った。しかし、そういうペトロをなお主は招いて「私の羊を飼え」と、主が愛する羊たちを彼に託される。これは羊の大牧者である主に従って、小さな羊飼いになる大使命です。後の日に建てられる教会の土台になるという大使命をペトロにお与えになった。

その転機の日は来た。主イエスの復活後五十日目のペンテコステの日に、聖霊なる神が天から降り、弟子たちを覆い、彼らは聖霊に満たされ新しい人に変えられた。ペトロはペトロだが昔のペトロではない。新しい使徒ペトロです。使徒言行録２章のペトロの説教を見てください。ガリラヤの漁師を「人間を漁る漁師」に変えてくださった聖霊の御業です。それからのペトロの活躍の一端は使徒言行録に示される。

もうひとりの人、ジョン・ウェスレーについて話したい。若き日のウェスレー、自らを主に献げて、新大陸アメリカにまで伝道に行った彼ですが、なお「心に責められる」思いは消えなかった。しかし、転機の日は来た。それがアルダスゲートの経験です。彼は聖霊に包まれ、心は不思議に温められた。やがて時が来て、彼は教会と社会を変革する器となる。時と状況は全く違うが、ペトロを変えた主は、ウェスレーも新しい人に造り変えて用いられたのだ。

（志木教会アシュラムの聖日礼拝にて）

⇐志木教会 by Google Earth

立証 主よ、共に

函館栄光キリスト教会信徒
河合　豊

当教会の佐々木牧師から、2011 年 5 月、教会の「証しの会」にお誘いをいただきました。

その時の立証者は、日本ホーリネス教団萩園キリスト教会牧師菊地徹先生で、お話の概要は、先生がお仕事の都合で東京のホテル・ニュージャパンに宿泊した際、戦後最大と言われるホテル火災に遭い、奇跡的に救助されたこと、また、先生のお母様が常に先生のため敬虔な祈りを捧げていたことを知り、受洗に導かれ、さらに、献身の道へと歩まれたという証しでありました。私は、キリスト教の教えには全く無知で、教会の証しとはどういうものか勿論知りませんでしたが、菊地先生の「献身」の証しは、私の心を捉え、深い感銘が今でも心の奥底にあります。私は佐々木牧師との出会いと、この証しを機にイエス様を信じることになったと言っても過言ではありません。

信仰の初めの頃、聖書を手にしたとき、馴染みのない記事、特にイエス様の数々の奇跡は、不可解、不条理なものと思いました。しかし、読みすすむうちに、これを理論的、理屈で理解しようとすることは、到底不可能であることが分かりました。信仰は何より神を信じること、祈りであることが本来の姿と得心し、2012 年 4 月、佐々木牧師の司式により洗礼の恵みをいただきました。

今、86 歳、腎不全のため人工透析、さらに、腎臓がん、大動脈弁狭窄を患い、妻は認知症のため、今年 3 月からグループホームに入所、長男は重度精神障害で、遠くの施設に入所中、次男は 11 年前 46 歳で急死。このような自分が抱えている数々の重荷は、神様に全て数えられている思いがします。「神様、なぜ、こんなに重荷を背負わせるのですか」――。

神様は真実です。御言葉に「苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる」と。憐れみに満ちた御言葉を信ずるとき、必ず希望の光と、永遠の命が与えられることを確信しております。余生の道を登っていきます。

第 13 回函館栄光キリスト教会 ミニ・アシュラム報告

牧師　佐々木　雄次

今年のミニ・アシュラムは、「信仰の実りである魂の救い」（ペトロの手紙一 1 章 9 節）を主題として、11 月 3 日（水、休）午後 1 時から 4 時半までの半日、16 名の出席者（大半が高齢者）によって守られました。

開心の時を兼ねた開会礼拝ではペトロの手紙一 1 章 3－9 節の説教を佐々木が担当し、9 節の「あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けている」という御言葉から、「魂の救い」は「信仰の実り」であり、「終わりの時」(5 節)に受けるものであるが、既に「受けている」ものでもあることを改めて示されました。信仰者は「イエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え」られ、終わりの時までキリストを愛し、喜ぶ信仰に生きることができる。そして、「神の力により、信仰によって守られ」、信仰の実り（ゴール）である完全な救いを受けることができる。この約束に心から感謝する者です。

御言葉の静聴と分かち合いでは、フィリピの信徒への手紙 4 章 4-9 節を静聴し、恵みを分かち合った後、4 グループに分かれて、祈りの細胞を守りました。互いに心を開き、一人一人の重い課題を聞き合い、神の御前で告白し、助けを願い求めましたが、豊かな恵みのうちに、あっという間に時間が過ぎてしまいました。当教会では、コロナ禍のためしばらく、主日礼拝後の分かち合いが中止されていますが、信頼し合って、御言葉を分かち合い、祈り合う群れに主が共におられることを深く思わせられました。

充満の時に目立ったのは、「主に委ねる」という言葉でした。それは、自分の「信仰の実り」について考え、御言葉から聞き、分かち合い、祈り合って、言い表すことのできた、信頼に満ちた言葉であったと思います。

各地のアシュラム報告

第 3 回志木教会アシュラム

10 月 16 日（土）午後から 17 日（日）昼まで。参加者は 30 名ほどで、5 つの分団に分かれて、開心の時、2 回の静聴の時と分かち合いの時、真ん中に聖日礼拝を挟んで充満の時まで、コンパクトにまとまって充実したアシュラムでした。最後に「イエスは主である」と主の聖名を崇めました。

第 54 回関西アシュラム

第 54 回関西アシュラムは 11 月 23 日勤労感謝の休日に大阪クリスチャンセンターで行われました。助言者にはアシュラムセンター（近江）主幹の榎本恵師をお迎えし 23 名の参加者がありました。詳細の報告は次回に掲載いたします。

アシュラムの恵み　池の上キリスト教会創立者　山根可弌（よしいち）

マルコ 4 章 28～29 節

「アシュラム」というと、何のことだろうか？　クリスチャンはキリスト教の別派とまでは思わないまでも、総動員伝道とか、あるいは救世軍とでもいえば判りやすいが、どんなことをするのかとよくたずねられる。

私の答えは簡単である。今日まで語られてきたキリスト教と特別に変わりはない。訪問伝道も総動員伝道も、みな含まれているはずである。物事には原則があるので、五大原則などと掲げたので、かえって難しく考える人もあるようであるが。

スタンレー・ジョーンズ博士が永年のインド伝道中に、ある宗教のやり方を見て、これにキリストが入ればと思われ、アシュラムの本家はこちらだというところから、世界アシュラムが誕生し、教派教団教会との結合ではなく、キリストと自分との楽しい結合で、この生活をしてみれば、横の結合（教会との正しい結合）も自然に教団を超えて生じてくる。

幼児が危険な道を一人で歩いているのを見れば、誰でも「危ない！」と思う。しかし、母親の手にしっかり握られ、自分を完全に母に委ねていくとき、身の安全だけでなく、母は間違いなく我が家に連れ帰る。幼稚な私の歩みは、ここからアシュラムが始まった。

次に独り歩きができるようになると、子どもは母親の限界を出る。また言葉に従わないでも危険を知らない。聖書が少しわかるようになり、静聴を怠る人は、この危険を知らない。平安がない、他人に危険を与えているかもわからない。ある姉妹の証しに、静聴の指導を受けるまでは、聖書を読んでも御言葉がいのちとなって留まらなかったが、今は静聴により主にある生きた生活になった、と。

子どもも中高生くらいになると、もう自由になったと思う危険がある。まだまだ親の指導と学校の教育による最も大切な時である。アシュラム生活も、静聴の結果、聖霊の啓導に与り、使徒行伝に学ぶように。それぞれ神支配のもとに全き生活に歩むべきこと、それが当然であるとの理解が、だんだんと自分のものとなってくる。

このように神支配に委ねて歩むならば、聖霊の充満に与ることは間違いない。何年教会に来て信仰生活をしているつもりでも聖霊の充満がなければ、ルールを正しく歩んでいなかったということ、しかし、失望することなく、どこで自分がストップしているか、そのところから前進すればよい。主は毎日共に歩まれる。（「アシュラムの恵」より抜粋）

アシュラム誌校正について

アシュラム誌は前回発行までは編集校正を内部のみで行ってまいりました。そのため、誤字脱字などが多くみられ、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

今号より連盟副理事長の清水潔師が第一校正に加わり、最終校正をプロの校正者に依頼させていただくことになりました。それでも文章にはミスが付き物です。今後も文章前後の文脈をお読みくださり、ご判断いただけますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記

コロナ禍によりアシュラムの活動も制約を受けていますが、オンライン配信で活動が続けられていることは感謝なことです。とはいっても、お互いに顔と顔を合わせて、お交わりをして信仰の確認しあうことは神様の恵みです。

今の世の中は、コロナからの解放と経済回復が急務とされていますが、経済回復があまりにも優先されることに疑問を感じます。私たちは、神様の前に静まり、神の細きみ声に耳を傾けることを最優先に考えるべきです。毎週の各教会の礼拝で神のみことばを聞いて信仰が整えられ、日々のデボーションで昨日一日の感謝と今日一日の平安と無事を祈る者でありたく願います。

事務局より

皆様には日本アシュラム誌のご愛読、ご支援を賜りありがとうございます。

二度目のコロナ禍のクリスマスと新しい年を迎えました。

このコロナ禍によりオンライン配信・非対面で礼拝をするということに不思議な思いを持ちます。全世界が困難に遭い、このような災害が起きたことは、気を付けるべきしるしかと思います。小康状態のコロナ禍ですが、まだ変異コロナによる第六波の危惧もあり簡単に終わらないと専門家は警報を発しております。お互いに気を付けましょう。

アシュラム予告

●城北アシュラム（リモート配信）

二〇二二年2月11日（金）開催を予定

三会場・（当番教会日基教団新宿西教会・日基教団更生教会・天門教会合同・ホーリネス教団池の上キリスト教会）

昨年同様に専門技術者を各会場に数名配置していただき、三会場を結びプログラムを共有し、ネット配信といたします。

●第58回関東アシュラム

二〇二二年9月19日（月）～21日（水）

助言者・島隆三先生

場所・第一候補、山崎製パン箱根山荘

・第二候補、山崎製パン総合クリエイションセンター（市川）

二年にわたり中止となりましたので、交通便を配慮して素晴らしい施設（山崎製パン総合クリエイションセンター）を会場候補に挙げていただきました。コロナ感染情報等を考慮して会場を決定する予定です。

●各地アシュラムは現在未定。